

トルコの新型コロナウイルス感染症の状況 (3)

【概要】

トルコは新型コロナウイルス感染症の症例が3/11に報告され、以降、1日当たりの感染者が4/11には5,138人、死者は4/17に126人など感染が急速に拡大し、4月中旬頃、第一波のピークを迎えた。5月に入り感染の広がりは一息落ち着きを見せたため、政府は5/11より第1フェーズとして一部の経済活動や広域都市を含む県以外の都市間移動や週末の外出規制を緩和した。ただし、5/23～26は断食明けの祝祭で、トルコでは親戚や親しい人を訪問する習慣があるが、全土で外出規制を実施した（外出禁止の65歳以上に対しては許可を取得した場合、最低1カ月の移動先に滞在すること等を条件に外出が認められた。）。

その後、6/1よりは通常化への第2フェーズへ移行し、HESコード（独自開発の移動追跡アプリ）登録を条件に全国の都市間移動制限を解除、公務員の通常勤務を再開、レストラン、カフェ等の営業や博物館、スポーツ施設、娯楽施設等は時間等の制限を設けながら段階的に通常に戻す措置が取られ始めた。これにより、学校、リスクのある65歳以上の高齢者と18歳以下の若年層の外出、海外渡航、一部の娯楽以外はほぼ全て再開されることとなった。主要15都市では6/6～7の週末の外出禁止令が出たが、エルドアン大統領が撤回したため、4/5以来、約2カ月ぶり全土で外出が解禁となった。続いて6/10以降は感染リスクが高い高齢者と若年層の外出規制を緩和し、65歳以上の10～20時の外出を許可、18歳未満は保護者帯同を条件に外出が可能となった。国際線は6/10に再開予定だったが、1日遅れで再開する。エルドアン大統領は「ニューノーマルが続くことを忘れず、マスク着用、社会的距離をとる、清潔を保つことを守ってほしい。」と国民に予防を続けることを呼びかけている。また、コジヤ保健相は6/3にトルコには第2波は来ないと述べている。

6/9現在のトルコにおける感染状況は、感染者172,114人（993人/日）、死者4,729人（18人/日）、快復者144,598人（3,218人）、重篤者は人工呼吸器装着者281人、ICU642人で、依然として数は多いが、1日あたりの新規感染者数は5/20に1,000人を切ってから、死者数は4/26に1日あたり100人を切り、5/18以降は20～30人前後となっている。致死率は2.75%で諸外国よりも低めに抑えられている。海外との比較では、6/8現在でトルコの発症者は12番目に、死者は15番目に多い。ただし、段階的緩和により、感染者数には若干増加に転じた。現在、トルコは無症状感染者の追跡に力を入れており、多い時で1日約5万件のPCR検査を実施している。

トルコの新型コロナウイルス対策は、感染者数は独、仏等と同様だが、致死率は比較的強く抑えられた。コジヤ保健相によると適切な投薬等の治療を行ったこと、治療の早期対応により入院患者の肺炎発症を60%から3%に抑え、ICU患者の致死率も58%から7%に下がったこと、また、高齢者の外出を制限したことで、発症者は多くとも重症者を含む入院者の比率は低く抑えられたこと等がその要因であるという。トルコでの新型コロナによる死者の中間年齢が74.6歳、死者の93%が65歳以上であるなど、高齢者が重症化し死に至ることが初期段階でわかったため、かなり厳しい外出制限をしていたが、その結果、高齢者の感染率は制限開始前の15.7%から7.5%と半分押し下げられた。また、若年層の外出禁止は、若年層が無症状感染者であることが多く、感染が拡大する恐れがあったためとられた措置であった。この他に、現政権が国民皆保険制度を導入、病院の増設や医療制度の近代化により、8300万人に対し、医療従事者は110万人と一定数を確保できたこと、また、速やかに仮設病院を建設し、病床数に余裕が持てたことも挙げられる。与党AKPが実施したアンケートによると、社会生活には87%が影響を受けたと答え、政府の対策については約90%が支持という結果が報告されている。

外交面では、諸外国に人口呼吸器を含む医療物資支援を積極的に行い、100カ国以上に対して「コロナ外交」を継続して展開している（トルコ貿易省の輸出組合より当協会宛にマスク、消毒用アルコール等が届いたのもその一環かもしれない）。トルコ政府は困難な状況会においては連帯すべきだと国際社会に呼びかけを行っている。

日本とトルコの関係では、5/21にPPPにより建設中だった双日の協力による「チャム・サクラ市民病院（旧称：イキッテリ市民病院、イスタンブル）が開院した。エルドアン大統領が出席して行われた開院式典には安倍総理がオンラインで参加、両国友好の新しいシンボルの完成に祝辞を寄せた。同院は当初6月開院予定だったが、コロナ対策のために4/20に一部開業を開始し、時期を早めての開院となった。

【関連トピックス】

《バシラクシエヒル「松と桜市民病院」の開院》

日土（双日、ルネサンス）PPPによるイスタンブール郊外の市民病院が5/21に開院した。一般、循環器、癌、婦人科、小児科、整形外科、理学の各病棟からなり、欧州最大規模。病床数2,682床、一日の患者受け入れは32,700名。当初は2020年6月の開院を予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策として4/20に一部開院し、正式開院も繰り上げた。最先端の免震建築、ヘリポート3機分、有事には大多数の病室を集中治療室に変換できること等が特徴。1万人の雇用も生む。

《段階的な正常化プロセス》

トルコ政府は5/3に第1段階：5/11～5/26、第2段階：5/27～8/31、第3段階：9/1～12/31、第4段階：1月以降と分けて正常化プロセスを実施すると公表。

- ・6/1より都市間移動制限を廃止。（広域市：アンカラ、バルクエシル、ブルサ、エスキシェヒル、ガズィアンテプ、イスタンブール、イズミル、カイセリ、コジャエリ、コンヤ、マニサ、サカルヤ、サムスン、ヴァン県、及びゾングルダク県）も可。（状況によっては指定地域での制限する可能性）。長距離移動（バス、飛行機）はHESコード取得義務。

- ・6/1より公務員の通常勤務再開。
- ・レストラン、カフェ、プール、温泉等は6/1に22時まで営業可。娯楽施設、水たばこ屋は除く。
- ・65歳以上の6/1(日)14時～20時の外出可。6/10以降は10-20時外出可。（65歳以上の事業主、商店主、職人は条件付きで勤務可能）
- ・20歳以下だった若年層の外出制限を18歳以下に引き下げ。6/3,5の14～20時の外出許可。6/10以降は保護者帯同にて外出可。
- ・海岸、公園、博物館、ユースセンター、図書館、スポーツ施設を再開。
- ・65歳以上は5/31(日)14-20時、18歳未満は6/3,5の14～20時に徒歩圏内、マスク着用、社会的距離を順守の上の外出を認める。

（全て罰則規定あり）

- ・空路は6/1に国内線運航再開（イスタンブール＝アンカラ、イズミル、アンタルヤ、トラブゾン）。国際線は6/11より徐々に再開（6/10から再延期）。

《コジャ保健相の記者会見》

コジャ保健相は6/3の専門家会議後に記者会見で下記説明を行った。

- ・感染予防を続けながら、経済活動の減速を防ぎ、国家を繁栄に導くための3つのポイントは、治療の成果によりこの感染症の厳しさが忘れられがちであるが、パンデミックが終わったという誤解をしないこと、リスクのある人々に対する制限を緩めないこと、以前までと同じ通常に戻るのではなく計画的な方法によりそれに近い通常に戻る努力をすることであると述べた。

- ・科学的にもマスク着用と身体的距離をとることが感染を防ぐ唯一の方法。難しい場合もあるだろうが、Kontröllü Sosyal Hayat（コントロールをした社会生活）を守ること。マスク着用、身体的距離をとること、常に清潔にし消毒することを心がける。

- ・社会活動の再開は、リスクが至る所に存在するということであり、無症状の感染者が感染を広め、深刻な事態になる状況も予測できる。

- ・諮問委員会と保健省は各分野のガイドラインを制定した。具体例として、レストランでは2-3人以上にならないこと、ドルムシュ（乗合車）や市バスでは席を空ける事、公共交通利用時のマスク着用義務、店舗等はルールを守るように。予防策をとらなければ元通りになってしまうことを忘れてはならない。ショッピングモール（AVM）では入口にて検温し、高熱がある人、または体調が悪そうな人は入場不可。閉鎖された空間や職場等でも同様にすべき。また、AVM以外の店舗の店員、客の数に制限を設ける。マスク着用、身体的距離をとる。AVMのような混雑した場所には3時間以上滞在しないように。EVは定員の1/3に抑える。服飾店では、多くの人々が手に取ったものを触ったらよく手を洗う。顔を触らないように、等。

- ・病院は通常に戻り、緊急を要さないため延期していた治療を再開する。病院や診療所向けにルールを發布する。必要な時にのみ病院に行き、オンラインの予約システムを活用し、混雑を防ぐ。
- ・現在は第2波がくるという予想はしていない。
- ・最後の1人の患者まで対策は続く。一人一人の対策は社会への責任である。マスク着用および1.5mの社会的距離。特にまだ家から出られない子供や高齢者に対して私たちは責任を有する。
- ・検査数は工業地帯等で発症者の接触者等に対する追跡調査強化のため増加。現在は6千人態勢。ICU、人工呼吸器を要する患者数は3週間減少を続けている。
- ・22の大学、研究機関で治療薬及びワクチンの開発をしており、うち4機関で動物実験を実施中。
- ・薬品・治療については、ファビピラビル、抗マalaria薬は初期投与に効果が見られる。幹細胞治療は良い結果なし。血清治療は効果あり。より強い抗体をもつ血清を開発中。
- ・ロシアとはワクチン、治療薬開発で連携。
- ・外出制限は各県の感染状況に応じて必要な措置をとる。高齢者の外出制限も指針を決定する。
- ・病院は一般患者の受け入れや予約を再開し通常運営に戻すが、緊急性のない通院は控えるよう呼びかけ。
- ・都市間バスは稼働率50%で運行。
- ・3月と比較すると、感染者の23%は入院したが、現在はICUや人工呼吸器使用者も含め2.31%に押さえられている病床の稼働率が減り、重症者も減った。予防の効果の表れ。

《与党公正発展党（AKP）によるコロナ関連アンケート》

AKPの副党首 ハムザ・ダー氏が公表したアンケート結果は下記通り。新型コロナは政府の対コロナ対策についてはおおむね評価が高い。人命にかかわることで

- ・コロナは社会生活に影響した：87%
- ・政府のコロナ対策を支持：90%
- ・4日間の外出禁止を支持：80%
- ・コジャ保健相のパフォーマンスを支持：90%
- ・コジャ保健相による感染状況発表への信憑性：75%
- ・保健システムを信頼：78%
- ・経済対策を支持：83%
- ・消毒、清潔に気を付けている：90%
- ・教育、サッカーの試合延期等、外出禁止等：90%
- ・65歳以上の高齢者、20歳未満の外出禁止、ラマザンやバイラムでの外出禁止等を支持：80%

【ご参考】

1. 2020年1～2月

1/10、専門家による Coronavirus Scientific Advisory Board を組織。1/24、各空港にサーモカメラを設置し、中国からの渡航者を中心にスクリーニング、及び、税関に赤外線体温計、消毒液を設置、希望者にマスクの配布を開始。1/31、武漢滞在中の自国民の為に帰国便派遣。2/1、中国からのフライトを停止。2/23、イラン国境クムを封鎖。イラン=トルコ間のフライトを停止。2/29、イタリア、韓国、イラクのフライトを停止。イラクとの陸の国境封鎖。イラクとイランの国境近くに簡易病院を設置。

2. 2020年3月以降

《経済》

3/17 婚約・結婚式場、音楽付食堂・カフェ、カジノ、ビヤホール、喫茶店、カフェテリア、飲食付エンターテイメント場、野外宴会場、水たばこ店、水たばこ喫茶、インターネットサロン、インターネットカフェ、ゲームセンター、子供用室内遊戯場（AVMやロカンタ内設備含む）、団体の活動（特例を除く）、遊園地、プール、ハمام、サウナ、温泉、マッサージサロン、スパ、ジムの営業を停止。

3/18 雇用と産業を守ることを最優先とすることを前提に、1兆リラ（1兆6,000億円）の経済パッケージを

発表。国内線航空運賃の VAT を 18%から 1%に、小売業者等に対する社会保障費や税の納付期限延長、年金最低額の増額、銀行への債務返済の 3 か月間延期、輸出業者への資金支援、銀行に対する貸し渋り禁止等。

- 3/20 ショッピングモールの短縮営業開始。
- 3/21 ショッピングモール、理髪店、美容院、エステサロンの営業停止。
- 3/22 飲食店の営業をテイクアウトとデリバリーに限定。
- 3/24 スーパーの営業を 9～21 時に短縮。来客同士は 1m 間隔をとる。面積当たりの人数による入場制限。
- 4/1 スーパーの棚は最低 3m間隔に、店舗内の入場者制限、出入り口を分けると内務省が通達を出す。
- 4/2 郵便局 (PTT) のうち混雑が緩和できない支店の閉鎖
- 5/11 ショッピングモール、美容室、理容室、ビューティーサロン営業再開 (ルール有)。自動車関連工場再開。
- 6/1 カフェ、レストランの営業を 22 時まで可。プール、温泉、ビーチ、公園、博物館、ユースセンター、図書館、スポーツ施設再開。
- 6/10 カフェ、レストランの営業は 24 時まで営業可。
- 6/15 婚約式用サロン再開。
- 7/1 結婚式場、映画館、劇場を再開(予定)

《海外との往来の制限》

- 2 月 中国、イタリア、イラン、イラク、韓国便の運航停止
- 3/14 独、スペイン、仏、オーストリア、ノルウェー、デンマーク、スウェーデン、ベルギー、オランダへのフライトを 4/17 迄停止。アゼルバイジャン、ジョージアとは空路及び陸の国境閉鎖。(後に期間延長)
- 3/16 英、アイルランド、UAE、スイス、エジプト、サウジとのフライト停止、メッカ巡礼帰国者隔離。
- 3/17 欧州滞在者の帰国希望者約 3614 人向けに 34 便を派遣。帰国者は学生寮等で 14 日間隔離。
- 3/21 アジア、アフリカ、中南米諸国等 46 カ国 (全 68 カ国) を航空便運航停止対象国に。
- 3/23 在外公館の査証発給業務を停止。
- 3/27 ターキッシュエアラインズが全国際線を運休 (貨物以外)
- 6/11 国際線再開、(5/28 より順次国際線を再開 (19 カ国) 予定だったが 6/10 に延期、その後再延期)
*在外トルコ人帰国希望者向けの特別機は順次運行し、128 カ国より 8 万人のトルコ人が帰国。帰国便のない外国人に対しても随時搭乗させている。

《国内の移動》

- 3/23 市内の公共交通機関は定員の 50%での運行に制限。
- 3/27 国内線フライトを主要都市間に限定。長距離バスは条件付運行。都市間の移動は許可取得義務。
- 3/28 イstanbulのマルマライ、アンカラの首都鉄道を除き新幹線、高速列車等の鉄道が運休。
- 3/30 主要都市 (イstanbul、アンカラ、イズミル) でのタクシーの運行制限 (末尾ナンバーで区別)。
- 4/3 国内線フライトを 4/20 まで運休 (その後、5/28 再開に変更)
- 4/3 主要 31 都市間の移動を 15 日間禁止(以降継続)。医療のサポート、葬儀、軍等の移動は条件付きで許可。
- 4/6 イstanbul市内の地下鉄は 21 時まで運行。一部の市内交通停止。
- 4/11 主要 31 都市の 48 時間 (4/11-12) 外出禁止。禁止の 2 時間前に内相が発表したためパン屋、マーケットに人が集まり混乱。(SNS で批判が殺到、混乱を生じさせたとソイル外相は辞意を表明するも、4/13 に大統領に受け入れられず留任)
- 4/11 イstanbulのメトロが週末運休
- 4/13 31 都市 (30 大都市とゾルンダルク) は週末 4/18-19 の外出を禁止。以降、毎週末と祝日は外出禁止に
- 5/4 アンタルヤ、アイドゥン、エルズルム、ハタイ、マラトゥヤ、メルシン、ムーラの移動制限解除。
- 5/5 イstanbul、アンカラ、イズミルで実施中のタクシーの営業制限 (末尾の偶数、奇数別) 解除。
- 5/11 アダナ、デニズリ、ディヤルバクル、カフラマンマラシュ、マルディン、オールドウ、シャンルウルフア、テキルダー、トラブゾンの移動規制解除。

6/1 全県にて都市間移動規制解除。国内線が再開（イスタンブル=アンカラ、イズミル、アンタルヤ、トラブゾン）。移動用追跡アプリ HES 登録を義務に。

《人々の行動に対する制限》

- 3/19 宗務庁は集団礼拝の禁止に加え、モスクの金曜礼拝中止の通告 muftis を発出。
- 3/21 軍の式典の延期。床屋、美容院の営業停止。公園、バーベキュー場等でのバーベキューを禁止。
- 3/22 65 歳以上の高齢者及び慢性疾患者の外出禁止。
- 3/27 ピクニック場、森、遺跡（観光地）の週末の閉鎖。週末のピクニック、釣り、屋外の運動（町中でのランニングやウォーキング含む）を当面の間禁止。自治体ごとに平日も適用するか決定。
- 4/3 20 歳以下の外出禁止。公の場でのマスク着用義務化。
- 4/3 31 都市での 15 日間入県禁止。20 歳以下の外出を禁止（4/5 に 18-20 歳の就労者は例外に変更）人の移動が 75%まで減少。
- 4/8 墓地を閉鎖。ラマザン中の Tarawih の祈りはモスクでは行わないと宗務庁発表
- 4/9 20 歳以下の外出禁止の例外として、自閉 autism、重度の精神疾患、ダウン症を追加。
- 4/10 31 都市で週末の外出禁止を発令 2 時間前に通達。混乱が生じる。
- 4/16 31 都市での週末の外出禁止の通達。ただし、パン屋、薬局、病院、公共サービス事業は営業可。
- 4/23(祝日)~26 31 都市での週末の外出禁止の通達。例外あり。
- 5/4 65 歳以上は週 1 回、4 時間外出可。14 歳以下の子どもは 5/13 11~15 時に外出可。ソーシャルディスタンス順守。15~20 歳は 5/15 11 時~15 時に外出可。身体的距離を空けることを呼びかけ。
- 5/11 一部都市での移動規制、週末の外出規制解除。
- 5/16~19、一部都市で外出規制（5/19 は祝日）
- 5/23~26 断食明けの祝日の外出禁止。
- 5/29 一部モスクで金曜礼拝再開。（感染予防策順守）
- 5/30 65 歳以上は許可取得の上、1 カ月滞在することを条件に移動可（付き添いは 3 日間で戻る）。子どもは必要な訪問先に保護者同伴で外出可。
- 5/29 外出禁止の若年層の対象を 20 歳未満から 18 歳未満に変更
- 5/30~31 15 県で外出禁止。ただし 5/30 は徒歩圏の食料品店へは外出可。
- 5/31 65 歳以上は 14~20 時外出可。
- 6/3 18 歳未満は 14~20 時外出可
- 6/5 18 歳未満は 14~20 時外出可
- 6/1 全県の都市間移動規制解除。都市間移動には HES コードを取得
- 6/1 公務員の通常勤務再開
- 6/6~7 15 都市にて外出禁止令が出されたが、エルドアン大統領により解除
- 6/10 65 歳以上は 10-20 時外出可。18 歳未満は保護者の帯同を条件に外出可。

《文化、スポーツ関連》

- 3/16 3/30 まで全国の図書館閉鎖を発表。
- 3/17 公の休憩所や娯楽施設（劇場、映画館、展示場、コンサートホール、ジム）を閉鎖。
- 3/20 4 月末まで学術、文化、芸術の集会や催し等を禁止。競馬の無期停止。
- 3/22 スポーツ試合は 4 月末まで無観客試合、文化観光省主催の芸術関係のイベントは 4 月末まで延期。
- 5/10 サッカーリーグは 6/12 に試合再開を発表
- 5/11 バスケットボール、バレーボールの今シーズン終了を発表
- 6/1 スポーツ施設、博物館等が再開

《教育》

- 3/12 大学が休校。学生寮の入寮者は退出（寮の隔離施設転用のため）。on-line 授業へ順次切り替え。

- 3/16 小、中、高が休校。
- 3/23 国営放送 TRT 局で小中高の遠隔授業を開始。テレビ、ネット環境に不備がある家庭に対しては補助。3GB まで無償。3/26、4 月末までの休校措置を発表。
- 3/26 高等教育委員会が大学の春学期授業は遠隔実施を発表。
- 4/29 遠隔授業を 5/31 まで延長を発表。
- 5/8 統一試験を 1 週間延期（高校入試（LGS）は 6/20、大学入試（YKS）は 6/27-28）。
- 5/18 学校再開は 9 月の新年度に延期

《政治》

- 4/12 ソイル内相が急に週末外出禁止令を出し国民の混乱を招いたため辞任を表明したが、エルドアン大統領が認めず留任。
- 4/14 コロナ患者の治療費を無償に。
- 4/16 コロナウイルスの影響を勘案した予算が国会で承認。
- 6/2 48 日ぶりに国会召集（マスク着用等義務化）

《日本関連》

- 3/18 日本はトルコを含む全世界に対し感染症危険情報 1 を発出。
- 3/21 在トルコ日本大使館はターキッシュエアラインズの減便が見られることから、短期渡航者、帰国予定者に対し、早期帰国の検討についての通達を発出。
- 3/24 宮島大使がコジャ保健相と面談。
- 3/25 ターキッシュエアラインズの成田便最終便運航。（6 月再開の可能性）
- 3/31 トルコを含み感染症危険情報レベルを 3（渡航をやめてください）に引き上げ。
- 4/3 午前 0 時（日本時間）より入国拒否対象地域に追加。（14 日間の待機、公共交通機関不使用陽性、PCR 検査の実施対象。トルコから入国する外国人は特段の理由がない限り入国拒否）
- 4/17 安倍総理とエルドアン大統領は約 20 分間、電話会談を実施。内容は下記通り。（外務省 HP より）
 - ①エルドアン大統領から、新型コロナウイルス感染症にかかるトルコの取り組みにつき説明があり、安倍総理からエルドアン大統領のリーダーシップの下、あらゆる措置で新型コロナウイルス感染症に立ち向かっていることに敬意を表した。
 - ②安倍総理から、新型コロナウイルス感染症に関する日本での取り組みを説明するとともに、トルコにおいて日系企業と現地企業が共同で建設した病院が感染者の治療に貢献することを期待している旨述べた。これに対しエルドアン大統領は、新型コロナウイルス感染症に関する日本政府の対応を高く評価する旨述べた。
 - ③両首脳は感染の拡大防止に向け緊密に連携しつつ、引き続き日トルコ関係の強化に取り組んでいくことで一致。
- 5/11 いすゞ、トヨタ、ホンダ工場等は停止中だった工場を含め生産再開。
- 5/21 一部オープンしていたイキテリ市民病院（双日とトルコ企業の JV）が「松と桜市民病院」として開院。式典にはエルドアン大統領、安倍総理はオンライン参加。
- 6/18 TK の臨時成田便運航（予定）

《諸外国に対する支援》

- 4/1 NATO Euro-Atlantic Disaster Response Coordination Center に NATO 加盟国として防護服、消毒薬、マスク 45 万枚等の医療物資支援を実施。スペイン、イタリア向け。
- 4/14 英国へ軍用機で医療物資支援（N-95 マスク 5 万枚、衛生マスク 10 万枚、防護服 10 万着等）。
- *トルコは米、外交関係縮小中のイスラエル、断交中のアルメニア等 100 カ国以上に支援物資を送付。

《医療関係》

- 3/30 イスタンブールのオクメイダヌ病院の耐震補強工事が終了し再開、コロナ患者受け入れ、600 床。
- 4/1 トルコ全 81 県で感染者、39 県で死者。601 人の医療従事者感染、医師 1 名死亡を含む。

- 4/6 イスタンブルの新旧空港に仮設病院建設計画を発表。約 2,000 床（コジャ保健相は 5/6 に仮設病院は自然災害等の緊急事態に備えた医療施設としての利用を見込んでいるため、コロナ収束後も活用が期待できると発言。仮設病院はコロナ以外に大震災発生時にも利用される予定と表明）。マスク販売を禁止、保健省と交通インフラ省の協力で外出禁止の 20 歳以下と 65 歳以上を除く希望者へマスクの無料配布開始。
- 4/21 イキッテリ病院（後に松と桜病院に名称変更）一部開院。
- 5/6 保健省と統計局は 15 万人の PCR と抗体検査を実施すると表明。
- 5/7 マスク販売を再開。価格の上限を 1 枚 1 リラに。
- 5/21 日土 PPP による「松と桜病院」開院
- 5/26 イスタンブルに仮設病院 Sancaktepe の Prof.Dr. Feriha Öz 救急病院(1,008 床)開院
- *国防省がマスク、防護服等を製造、民間企業が医療関連物資の生産に協力（自動車→人工呼吸器、繊維製品→マスク、等）。工業高校、刑務所でもマスク製造を実施。
 - *各大学で検査キット、ワクチン、治療薬の開発を実施。
 - *在外トルコ人家族に医療用飛行機を派遣（医療用機は無償）。
 - *人口呼吸器を 5,000 台生産。
 - *6,000 チームで全国の感染者の接触者、感染経路等の調査を続けている。

《その他》

- 3/1 より感染予防のため、公共の場、交通機関、手指用消毒薬設置を開始。
- 3/19 より保健相が医療従事者に対する謝意を示すため、毎晩 21 時に拍手を送るよう呼びかけ。
- 3/22 に官公庁でフレックスやリモートワークを導入。
- 著名人の感染者では、元陸軍司令官（79 歳）がイランからの帰国後に死亡等。その他著名人の罹患多数。
- 公共広告や企業広告では「家にいるように(#Evide kalm)」と呼びかけているものが多数。
- 医療従事者の働きぶりや、快復者についての報道多数。（退院時に拍手が送られる様子等）
- 外出禁止の高齢者に対する買い物代行等を公務員等が実施。外国人に対しても同様の対応。
- 自国民用に国外派遣したチャーター機に帰国困難だったウクライナ人を搭乗させ話題に。
- 野犬、野良猫を地域コミュニティが守っており、公務員が餌やり等を実施。
- トルコが伝統的に使用するコロンヤ（香り付きアルコール液で、消毒に有効）が話題に。
- 4/23～5/23 のラマザン月のイフタル（断食明けの食事）で大勢が集うことも控えることを呼びかけ。
- 5/7 にトルコリラは対ドル市場最安値（\$1=TL7.204）。
- トルコはコロナに関しては海外に支援を求めず、自助努力。募金キャンペーン「Biz bize yeteriz（自分たちで賄おう）」を 3/30 に開始、国内で連帯と寄付を呼びかけ、6/9 現在で 20.8 億リラ(約 333 億円)に到達。
- 3 月は感染者の 62%が入院、現在は 6.7%。4 月に、ICU は 200 人から 50 人程度に、人工呼吸器使用者は 140 人が 25 に程度に。ICU 入院が平均 15 日間から 1-2 日に短縮。
- 迅速なデジタル導入（都市間移動 HES アプリ、感染状況確認の地図アプリ等）で感染対策を強化。
- モスクでの集団礼拝禁止は、宗教的保守派の AKP にとっては思い切った、また、世俗派政党ではできなかった感染予防策。
- トルコの対策については Daily Sabah の報道によると、外出制限、初期段階からの感染経路の追跡、積極的な検査、病床確保等を迅速に行ったことが感染者拡大や重症化を防ぎ、トルコの文化として老人ホームに住む高齢者が少ないことでクラスター感染を避けられたことで感染拡大や重症化を防いだと英国メディアで評価された。

以上